

経営状況判定フォーム（惰性経営による悪化プロセス）

今、御社はどのような経営の危機的状況でしょうか。
社長さん、もしカテゴリ6でも会社再建の道は見つかります。

経営状況の範囲	具体的な経営悪化の状況のプロセス	事業再生を目指し実行すべき重点対策
カテゴリ1 事業改善対策の範囲	1-1 売上は現状維持	マーケティング力の強化
	1-2 売上が減少してきた	事業計画策定
	1-3 粗利が低下してきた	目標達成の運営管理体系の確立
緩やかに業績が低下する時期、改善対策を実行しなかったことが、現在の債務超過。		
カテゴリ2 徹底したリストラによる再建の範囲	2-1 経常利益が赤字 何とか売上を確保して乗り切ろう	経費削減と資金繰り対策
	2-2 営業利益が赤字	徹底した不必要経費の削減
	2-3 借入高止まり	銀行借入返済負担軽減
自主努力による事業改善が債権者負担を強いる事業再生のターニングポイント。		
カテゴリ3 債務返済変更とリストラによる、再建の範囲	3-1 債務超過	利息支払もしくは銀行借入返済停止
	3-2 銀行借入が出来なくなった 社長が金策に奔走	当面の緊急資金繰り対応（出るを制す）
	3-3 高利資金を借りてしまった 従業員が動揺して指揮が低下してきた 倒産が頭をよぎるようになって来た	事業再生方針と再生スキームの確定
	3-4 社会保険、租税債務滞納、	当面停止もしくは分割支払の措置
	3-5 それでも銀行返済継続	銀行の脅しに対する倒産の恐怖
資金繰り破綻が目前、事業再生対策を実行しなければ実質破綻企業へ。		
カテゴリ5 大胆な業務構造改革 借入返済停止、条件変更の範囲	4-1 買掛支払の遅延、給料遅配 組織の乱れ、管理不能	基本方針に添った再生スキームの実行
	4-2 銀行返済不能、返済停止 従業員の退職、業界内の信用不安 銀行から厳しく対応を迫られる	金融債務の消滅計画
	4-3 資金繰り破綻 倒産を覚悟、破産申請相談を考える	不動産任意売却
経営の危機的状況からの劇的な復活…… 金融債務返済をすべて停止しても会社は倒産しない。		
カテゴリ6 金融債務消滅による再生	5-1 返済停止が3ヶ月経過	保証人の資産保全対策
	5-2 返済停止が6ヶ月経過	実質破綻先でサービサーへ債権譲渡 借金消滅の実現
	5-3 担保不動産売却手続き	引き戻しと真正売却
	5-4 保証協会が銀行債務を代位弁済	月額1万円程度の返済
	5-5 金融債務がサービサーへ譲渡	債務の数パーセントで一括和解
営業収益確保の可能性によっては事業再生を断念、人生再生策で再起を図る。		
カテゴリ7 人生再生対策の範囲	6-1 倒産、破産前夜	必要資金の算定
	6-2 X-Day の設定	資産の資金化
	6-3 弁護士に破産の委任	第2の安定した人生へのスタート
	6-4 裁判所に破産申請	